

## 現場連携による実習評価ルーブリックの開発 (Ⅱ) ～ルーブリックを活用した事後学習の授業研究～

尾崎 司<sup>†1</sup>

(平成 30 年 12 月 6 日査読受理日)

### Development of an internship assessment rubric in cooperation with a nursery center (Ⅱ)

OZAKI, Tsukasa<sup>†1</sup>

(Accepted for publication 6 December, 2018)

#### 要約

本研究では、ルーブリックを活用した教材を実際に作成し、学生の学びがどのように構成され促進されるかに関して考察し、授業改善のための視点を探った。その結果、ルーブリックを事後学習に活用することで、次のようなことが確認された。(1) 開発された教材シートは、リフレクション・ツールとして機能していた、(2) ルーブリックの活用により学外実習での評価と事後学習を連動させ、評価指標に基づいた具体的な体験をリフレクションすることができ、課題の明確化が可能となった、(3) この教材シートによる授業が、評価できないものを承認する場となった。

#### Abstract

This paper presents a pilot study in order to provide a lesson evaluation system after Child Care Internship. I attempted to create worksheets for learning facilitation in making use of an internship assessment rubric and to research into the viewpoint how the students learn from their experience. The results indicate beneficial possibilities and viewpoints. Worksheets making use of an internship assessment rubric (1) have a function as a reflection tool, (2) facilitate assessment for learning and indicate what to do next, and (3) make a learning community to satisfy students' desire for approval.

キーワード：保育実習、パフォーマンス評価、ルーブリック、授業デザイン、FD

Key words : Child Care Internship, performance assessment, rubric, Instructional design, faculty development

#### はじめに

近年、保育の質向上や保育者の専門性が求められ、保育所保育指針には、保育の質向上のために「自己評価」に基づく課題へ対処し専門性を高める職能を身につけることが強調されている。保育者養成校においても、実習の各段階を通じて自己評価を図りながら、仲間と対話し、自己評価のフレームを内面化していくような、リフレクションによる学びがますます重要となってきている。

尾崎・中村(2016)は、保育所実習における従来の評価に疑問を投げかけ、パフォーマンス評価であるルーブリックに着目し、学外実習への導入を図るために、保育所現場と連携しながらルーブリックを開発している。尾崎(2018)では、ルーブリックを実習評価に導入するた

めに、大学教職員、学生、公立保育所・私立保育園の園長を構成メンバーとして、ワーキング・グループを編成し、アクション・リサーチを行い、成果物としてのルーブリックを提示している。

では、こうして作成された学外実習ルーブリックを学内授業とつなぎ、「評価と指導の一体化」を行うには、どうしたらよいのだろうか。一般に保育者養成校では、学外実習の終了後、学内授業で実習体験を振り返り、次の実習に向けての学びや保育者になるための学びを促進している。

ルーブリックの学習促進機能は、自己評価に基づく課題の明確化や次の学習計画に必要な目標設定の際に、効果的であると考えられている。安藤(2014)は、「形成的アセスメント (formative assessment : FA)」とそこから派生した「学習のためのアセスメント (assessment

<sup>†1</sup> 東京家政大学短期大学部保育科

for learning : AfL) をルーブリックの理論的根拠として紹介しながら、ルーブリックには「次の学びに活かすという学習促進機能」があるということに言及している。そして、そうした学習促進機能を引き出すには、相互評価を介して一人ひとりの学習者の自己評価と結びつけることが重要であるとして、ルーブリックの学習促進的な実践モデルを紹介している。また、竹中ら(2016)は、看護実習の分野でのルーブリック導入の効果として、「学生にとって実習における学びの状況を振り返る行動を促し、自己評価の重要性に気づくきっかけとなっていた」と自己評価能力の育成と学習促進機能に効果があるとしている。

保育実習におけるルーブリック研究でも、事後指導においてルーブリックを活用するだけで効果的であるということが報告されている(加藤ほか, 2017)。この調査報告では、ルーブリック回答と自由記述の回答を、保育実習 I (保育所) を終えた学生 85 名を対象に、順序を変えた条件で比較実施し、ルーブリックと自由記述の関係性を分析している。その結果、ルーブリックと自由記述においてルーブリックの順番を先にした方が、実習の姿勢や発見についての記述が多いことが示されている。このことは、ルーブリックを自己評価に取り入れることで振り返りを深める可能性があり、ルーブリックが意図した保育の振り返りを導く可能性が示唆されているとしている。ただし、ここで取り上げられたルーブリックは、学外実習に活用しているわけではなく、あくまでも事後指導のみに適用した場合の一事例として活用されているわけであるが、学外実習の評価ルーブリックとつながりがなくとも、効果があることが推察される。

そこで以上のことを考慮し、学外評価ルーブリックを事後学習に円滑につなぐための授業研究を行い、ルーブリックを活用した教材を作成し、試行した。本稿では、この試行から、学びがどのように構成され促進されているかに関して考察し、授業改善のための視点を抽出し、事後学習モデル作成に役立てたい。

## 1. 研究目的と研究アプローチ

### 1) 研究目的

事後学習モデル作成のために、ルーブリックを活用した教材を作成し、学びがどのように構成され促進されているかに関して考察し、授業改善のための視点を抽出する。

### 2) 研究アプローチ

下記のようなプロセスを経て、ルーブリックを活用した事後学習をリフレクションし、改善点を整理する。

- (1) 授業のニーズを抽出する(授業構成における仮説)

- (2) それをもとに授業を構造化し教材を作成する
- (3) 作成した教材をもとに授業を実践する
- (4) どういう学び(アウトプット)が出てきたかを確認して教材を検討する

なお、作成した教材を試行しながら、出てきた学生の反応をフィードバックして事後学習モデルを作成したいと考え、各段階(STEP)で想定した学習活動が上手く進んでいる事例から検討した。

## 2. 授業デザインと教材開発

### 1) 授業のニーズを抽出する

尾崎(2018)では、保育実習に使用されている従来の5段階評価票で何を評価したいのかが明確でない、また、どのような改善が実習後の学生に求められているのかが分からないと学生たちはコメントしている。このことは、評価基準が曖昧なため、自己評価をする際に、具体的に何に注目して振り返ればよいのかが授業の中で明確になっていないことが考えられる。この点に関しては、ルーブリックの評価基準と項目は、学外実習を振り返るにあたって自己評価の一つの指標になる。そして、この評価基準と項目に従って自己評価を行うことで、評価と指導の一体化が可能となると考えられる。

また、学生はたとえ結果や行動に結び付かなくとも実習中に試行錯誤し頑張ったプロセスを評価してほしいと考えており、そのプロセスを誰かに受け止められるような仕組みが必要である(尾崎, 2018)。尾崎(2018)では、ルーブリックを作成・検討する中で「子どもが可愛い、保育が楽しい」と感じられる感性や、観察可能な行動として捉えることが難しい「保育者としての素養」に関する部分をどう評価するか、失敗の中で成長する部分をどう評価するかという課題があがった。これに対して、この研究の一環で実施されたシンポジウムでのパネル・ディスカッションでは、基調講演の講演者である佐藤浩章氏(大阪大学)から次のような趣旨のコメントがなされた。すなわち、「学生の感動や情意領域をどう評価するかは、かなり難しい問題である。保育だけでなく、看護・福祉などの援助職の評価にも、この情意領域の評価が伴う。『いちばん大切なことは評価してはならない』と板倉聖宣氏が言っているが、評価しない・できないということも必要である。これは、ある意味でルーブリックの限界であり、その他の仕組みを活用して、その部分を認める場、懇談の場を設けるなどして共有することで、承認欲求を満たしていくこともできる」と。このことは、評価できない情意領域に関しても承認欲求を満たし、それが保育者養成において最も重要な要素であることを確認し合える場が必要だと言える。したがって、個人のみ自己評価だけではなく、相互評価による振り返りの場

を授業の中で設定することが重要なのである。

このように、学外実習の評価項目と連動させながら、プロセスの評価と相互に承認し合える場づくりができる授業を想定し、教材作成をおこなった。

## 2) 教材を作成する

教材作成に関しては、図1のように、2つの観点からリフレクションの構造を考え、教材化した。

すなわち、一つ目はルーブリックの評価項目に沿った自己評価である。前述したようにルーブリックの項目をガイドラインとして、ルーブリックの評価項目に沿って、自己評価と体験を取り出すことが第1の作業である。この作業によって、学生は評価項目と自らの体験を結びつけ、リフレクションを行うことができると考えた。

2点目は、相互評価を介しての自己評価である。取り上げられた実習体験に関して、《コメントする》と《コメントされる》という2つの行為を通してリフレクションを行うことができる。他者の体験へのコメント体験では、「自分にも似たような体験があった」という同じ状況やプロセスへの共感を通して、あるいは「自分だったらこの実習体験に関してどう考えるか」というリフレクションの教材として、実習体験のメタ認知活動を行うことができると考えた。また、他者からのコメント体験では、「自分一人だけで悩んでいるのではない安心感やコメントによる励まし」を感じ、あるいは「自分以外の他者からの観点取得や視野の広がり」と学びの深まりを感じ、各々の実習体験を自分ひとりだけでは体験として枠組みを拡げて捉えることができるのではないかと考えた。このように、第2の作業によって相互評価を介して実習体験を対象化することが、プロセスの評価と相互に承認し合える場づくりに欠かせないと考えた。

作成した教材シートは、ルーブリック（保育実習Ⅰ）の「コミュニケーション」を除く項目を3分割し、3枚のシートとして実施した<sup>(注1)</sup>。

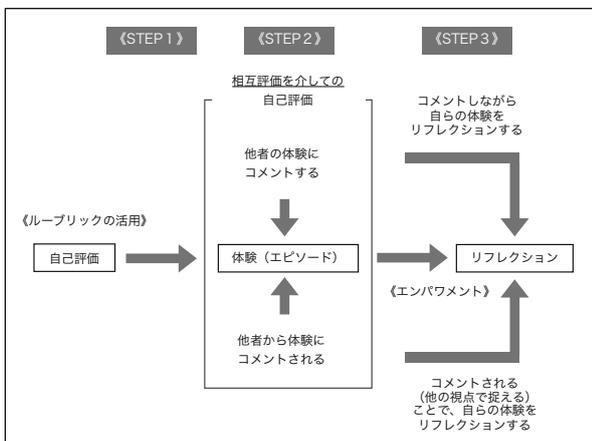


図1. 事後学習におけるリフレクションの構造

## 3) 授業概要

以上のことを考慮し、表1のような授業を計画した。

表1. 保育所実習の事後指導（2018年・前期開講）

[科目]	保育実習Ⅰ	[対象]	短期大学部保育科 109名
1回	4月12日	ガイダンス	
2回	4月19日	実習体験を振り返る(1) シート①	
3回	4月26日	実習体験を振り返る(2) シート②	
4回	5月10日	実習体験を振り返る(3) シート③	
5回	5月17日	評価開示とまとめ	

第1回目の授業では、予めシート①を配布し、2回目の授業までにシートの左半分（STEP1）のエピソードを記入するように課題を提示した（記入・持参してこない学生は授業に参加できない<sup>(注2)</sup>）。2回目の授業では、シートの右半分（STEP2）を授業内で実施し、同様に課題シート②の左半分（STEP1）のエピソードを次回までに記入するように課題を提示した。この作業を3回繰り返した後、5回目には実習先からの評価票の開示を行い、これまでのリフレクションを総合的にまとめたシートを完成させ、学習シート集として閉じて最終提出するようにした。

開発した教材シートは、資料1, 2の通りである<sup>(注3)</sup>。評価ルーブリックは尾崎（2018）を参照した。

## 3. シートによる授業実施と学生の学び

開発した教材シートを活用して事後学習の授業を実施した。ここでは、ルーブリックを活用した教材シートが、どのような学びを作り出すのかを検討し、授業改善の視点を抽出したい。学生が記述したシートのサンプル<sup>(注4)</sup>は、別紙（資料3～4）の通りである。各段階（STEP）においてリフレクションを深めるためには、自己評価したルーブリックの記述語に対して根拠となるエピソードがしっかりと記述され、それが他者から理解しやすい内容であることが前提となる。また、事後学習モデルを作成するためには、自身の実習体験を高く評価している学生がどのようなリフレクションを示すのかを検討する必要がある。そこで、自己評価のスコアが高く、かつエピソードが比較的わかりやすく書けている事例をサンプルとして、ここでは2名の事例のみ紹介する<sup>(注5)</sup>。

Aさんのリフレクションをみると、STEP3の「仲間からのコメントを読んで」には、保育者の援助について子どもへの肯定的な言葉掛けの場面を取り上げているが、実習の中で「肯定的な言葉掛けは意識しているが、とっさに否定的な言葉がでてきてしまう」という行為がAさんにとって今もお課題としてあり続けていることがうかがえる。それに対して、エピソードに対する仲間

からのコメントから「子どもの動きを予想してどのような言葉を掛けるか考えておく」というのはとても良い考えだと思ったと具体的なフィードバックによる学びの促進がおこなわれている。

また、Aさんは、自分が誰かに伝えたいと思ったエピソードを友だちが「素敵」「心が動いた」とコメントしてくれたことに嬉しさを強く感じており、特に自分が意識していた目標に対する評価であったため、Aさんの承認欲求を満たしたと推測される。事後の振り返りは、(肯定的ではない)反省点ばかりになりがちであるが、仲間からの肯定的なコメントによって「嬉しい」という感情が生まれ、また、考察に関して自分とは異なる視点を得ることができている。

Bさんの場合は、自分とは異なる視点というよりは、自分一人では気づけなかった発見・気づき・視点を得ることができたと述べている。自分が体験したもどかしさに対して、「共に図鑑等で調べて解決するのも子どもの関心をより広げることができる」という友だちからのコメントや、自分が体験から学びを的確に表現できていない状況を他者の視点からまとめてフィードバックしてくれたことは、Bさんの学びを促進し深めている。

AさんやBさんがコメントした体験や、STEP2でのコメントからは、友だちの実習体験を考察する中で自分と同じような状況・体験を見出し、自分の体験と対話する様子が見られる。同じ状況であっても捉え方や視点が異なり色々な考え方があることを知り、その体験へ共感する中から「～したい」という次への学習意欲が生じていることが分かる。また、自分が体験できなかったエピソードに出会うことも、新たな学びとなっている。

#### 4. 考察～授業改善の視点

試行の結果、次のような視点が確認された。

##### 1) リフレクション・ツール

開発された教材シートは、図1に示すように、自己評価を他者からのフィードバックによってさらに深め、自分だけではリフレクションが難しい別の視点の獲得に役立っていると考えることができる。

実習生がリフレクションを次の行為に活かすためには、具体的なフィードバックを促進するアクションがシートの中にさらに設定されていることが重要である。

##### 2) 評価と省察の連動による課題の明確化

ループリックを活用したことで、学外実習での評価と事後学習が連動し、評価指標に基づいた具体的な体験をリフレクションすることができた。これにより、具体的に何を振り返ればよいのか、次は具体的に何を課題にするのかといった課題の明確化が可能となる。

安藤(2014)が言うように、ループリックを「学習のためのアセスメント(AfL)」の考え方に位置付け、形成的な評価を行いながら、学びを促進して次の課題へと結びつけるアクションを教材の中に設定することが必要である。

##### 3) 承認欲求を満たすアプローチ

評価できない情意領域に関して承認欲求を満たし、保育者の素養として大切な部分を確認し合える場が必要であり、どのようにして、そうした懇談の場を設け共有することができるかという課題を、授業のニーズとして指摘した。

この点について、この教材シートによる授業自体が、こうした評価できないものを承認する場となっていることが明らかになった。そして、この承認される体験によって、学生は現状を受け入れ、次の学びに向かう原動力が生まれるのではないかと考えられる。実習の事後学習において、「他者を介した自己評価」の最大の効果は、この承認の機能にあると言える。

##### おわりに

本研究では、ループリックを活用した教材を実際に作成し、学生の学びがどのように構成され促進されるかに関して考察し、授業改善のための視点を探った。その結果、ループリックを事後学習に活用することで、次のようなことが確認された。(1)開発された教材シートは、リフレクション・ツールとして機能していた、(2)ループリックの活用により学外実習での評価と事後学習を連動させ、評価指標に基づいた具体的な体験をリフレクションすることができ、課題の明確化が可能となった、(3)この教材シートによる授業が、評価できないものを承認する場となった。

今回は事後学習モデルの改善・作成を目的とした授業研究のため、教材シートの学習活動が上手く進んでいる事例に焦点を当てた。エピソードが抽象的で状況がイメージしにくいものは、自己評価や他者からの評価へのコメントがやや具体性に欠ける記述となる傾向があり、今後は、エピソードを記入する際の説明を強化する必要がある。

また、シートの文字データを入力しているのも、今回のような事例をサンプルとした改善への使用だけでなく、学生が記述したシートの内容を分析し、評価項目と学びの内容とのつながりについて、引き続き検討していきたい。

なお、この研究は、本学の平成29年度及び30年度教育改革推進(学長裁量)経費の助成を受けている。

**【注】**

- (1) 保育実習Ⅰの事後学習では、あいさつ・所作・情報の共有（報告・連絡）・実習を受ける態度などのコミュニケーションに関する部分は、状況の把握及び相互評価が難しいため、シートから除外した。
- (2) 課題提示の際、研究でのシート使用について受講生に説明し、匿名での使用により本人が特定されないように配慮した。受講者109名を研究対象とし、シートのコメントを文字データとして入力した。
- (3) このシートは、これまでも授業で使用していたものをルーブリック活用に合わせて、筆者が大幅に変更している。出所は、東京家政大学『教育・保育のデザイン』研究会、「教育・保育のデザインー実感を伴う実習の学び」、萌文書林、(2010)
- (4) 使用した事例は、研究の趣旨説明を行ったうえで研究同意書に署名をしてもらった。
- (5) 全体109名のうち、2名をサンプルとした。サンプルの位置付けは、数量的な分析のためではなく、想定した学習活動が上手く進んでいる事例から、試行した教材による学習活動の確認のために使用した。

**【引用・参考文献】**

- 1) 安藤輝次、「ルーブリックの学習促進機能」、関西大学「文学論集」第64巻3号、pp.1~25 (2014)
- 2) 尾崎司・中村教子、「現場連携による実習評価ルーブ

リックの開発（Ⅰ）～保育所実習のルーブリック作成に関する予備的考察」、東京家政大学研究紀要、第57集（1）、pp.31~41（2016）

- 3) 尾崎司、「保育所現場との連携による実習評価ルーブリックの開発」、教育改革推進（学長裁量）経費予算成果報告書【平成29年度】、東京家政大学・東京家政大学短期大学部 学修・教育開発センター、pp.5~10（2018）
- 4) 加藤孝士・富田喜代子・原田美代子・兼間和美・湯池由美・山本健志郎・奥村英樹、「ルーブリックによる実習評価と実習後の振り返りの関係ールーブリックの回答順に着目してー」、四国大学紀要、(A) 49,pp.23—35（2017）
- 5) 東京家政大学『教育・保育のデザイン』研究会、「教育・保育のデザインー実感を伴う実習の学び」、萌文書林（2010）
- 6) 竹中泉・岸さゆり・山本十三代・小川宣子・坂本結美子・志戸岡恵子・杉田香苗・名草みどり・葛本有実子、「臨地実習評価にルブリックを導入してみた」、看護教育第55巻3号、医学書院、pp.228-232（2014）
- 7) ダネル・スティーブンス、アントニア・レビ、[監訳] 佐藤浩章、[訳] 井上敏憲、俣野秀典、「大学教員のためのルーブリック評価入門」、玉川大学出版部、pp.94-109（2014）

【資料 1】

《ワークシート①》

あなたの通し番号 (No. \_\_\_\_\_)

(STEP1) あなたの実習を振り返り、下記の3項目について3段階の自己評価をしてください。また、なぜそのような評価に丸をつけたかの根拠となるエピソードを枠内に記述してください。

	すばらしい！	がんばった！	次はクリアだね！
発達過程	子どもの姿を記録し、事前学習した発達の知識に関連づけることができる。	発達過程を意識しながら、子どもの姿を記録することができる。	子どもの姿を行動の羅列として記録するが、発達過程と関連づけることができない。
援助の理解	保育者の言動にふれ、姿勢やかかわり方、考え方を捉える、実践に結びつけることができる。	保育者の言動にふれ、姿勢やかかわり方、考え方を捉えることができる。	保育者の言動にふれ、その姿勢やかわり方、考え方に興味を持つことができな
保護者支援の理解	保護者向けの子育て支援の実例を聞き、事前学習と結びつけて、その重要性を理解することができる。	保護者向けの子育て支援の実例を聞き、事前学習と結びつけて、その重要性を理解することができる。	保護者向けの子育て支援の実例を聞いても、関心を持つことができない。

《発達過程》エピソード

《援助の理解》エピソード

《保護者支援の理解》エピソード

(STEP2) エピソードに対するコメント《所要時間 4 5分》

- ◎あなたのシートが先生に回収されジャッフルされます。そして、あなたの手元には他者のシートが配布されます。
- ◎手元に配布されたシートを受け取ったら、自分の通し番号 (No.) を記入します。左記の他者の3つのエピソードについて以下の点に配慮しながら、コメント①をまとめて記入してください (15分)。
- \*自分にも似たような経験があったか。そこから、何か伝えたいことはあるか。
- \*記述されたエピソードから、その人がどのような学びをしたと読み取れるか。
- \*自分が、この人の立場だったら、次にどのようなことに取り組むか。
- ◎記入し終わったシートは再び先生に回収されジャッフルされて再配布されます。コメント②、コメント③を記入してください (15x2回)。

コメント① (No. \_\_\_\_\_ )

コメント② (No. \_\_\_\_\_ )

コメント③ (No. \_\_\_\_\_ )

(STEP3) コメントを通しての感想と考察《所要時間 3 0分》

- ◎あなたのシートが返却されたら、お互いにコメントした感想をふまえ、考察 (気づき・新たに発見した課題・自分の視点の特徴) を記入します (30分)。
- ◎最後に、右下欄の所属 (クラス・番号など) ・名前を記入し、先生に提出してください。

①中間の事例を読み、コメントしてみよう

②仲間からのコメントを読んで

所属 \_\_\_\_\_ 名前 \_\_\_\_\_

【資料 2】

あなたの通し番号 (No. \_\_\_\_\_) 《ワークシート②》 \*これは左半分のみ掲載です。

(STEP1) あなたの実習を振り返り、下記の3項目について3段階の自己評価をしてください。また、なぜそのような評価に丸をつけたかの根拠となるエピソードを枠内に記述してください。

子どもへの関心の強さ	すばらしい！ 他者に伝えたいような子どもの姿に出会い、日誌などに記録し、保育の魅力を発見することができる。	がんばった！ 他者に伝えたいような子どもの姿に出会い、日誌などに記録することができる。	次はクリアだね！ 他者に伝えたいような子どもの姿を日々の保育の中に発見できない。
子どもの世界の尊重	子どもの目線に立ち、子どもが心を動かし考え楽しむことができ、日誌などに記録することができる。	子どもの目線に立ち、子どもが心を動かし考え楽しむことができる。	子どもの目線に立ち、子どもが心を動かし考え楽しむ過程に関心を持つことができな
生活の連続性への理解	日々の出来事や生活と子どもの姿とのつながりに関心をもち、関連づけて考えることができる。	日々の出来事や生活と子どもの姿がつながっていることに関心を持つことができる。	日々の出来事や生活と子どもの姿がつながっていることに関心を持つことができな

《子どもへの関心の強さ》エピソード

《子どもの世界の尊重》エピソード

《生活の連続性への理解》エピソード

あなたの通し番号 (No. \_\_\_\_\_) 《ワークシート③》 \*これは左半分のみ掲載です。

(STEP1) あなたの実習を振り返り、下記の3項目について3段階の自己評価をしてください。また、なぜそのような評価に丸をつけたかの根拠となるエピソードを枠内に記述してください。

遊びの理解	すばらしい！ 子どもと一緒に遊ぶことで、子どもが感じる遊びの魅力を理解することができる。	がんばった！ 子どもと一緒に遊ぶことができず、子どもが感じる遊びの魅力を促えることができない。	次はクリアだね！ 子どもと一緒に遊ぶことができず、子どもが感じる遊びの魅力を促えることもできない。
関わる準備と実践	子どもと関わるために必要なことを事前に考え準備しているが、丁寧に促えることができない。	子どもと関わるために必要なことを事前に考え準備できているが、丁寧に促えることができない。	子どもと関わるために必要なことを事前に考え準備できず、丁寧に促えることができない。
関わる魅力の発見	子どもとの関わりを通して気づき、発見できたことから、自分の考えをまとめることができる。	子どもとの関わりを通して気づき、発見をすることができているが、そこから自分の考えをまとめることができない。	子どもとの関わりを通して、気づきや発見をすることができない。

《遊びの理解》エピソード

《関わる準備と実践》エピソード

《関わる魅力の発見》エピソード



